ショウキョウ末

定量法の項を次のように改める.

定量法　本品(別途105℃，5時間で乾燥減量〈*5.01*〉を測定しておく)約1 gを精密に量り，共栓遠心沈殿管に入れ，メタノール／水混液(3：1) 30 mLを加え，20分間振り混ぜた後，遠心分離し，上澄液を分取する．残留物にメタノール／水混液(3：1) 30 mLを加え，更にこの操作を2回繰り返す．全抽出液を合わせ，メタノール／水混液(3：1)を加えて正確に100 mLとし，試料溶液とする．別に定量用[6]－ギンゲロール5 mgを精密に量り，メタノール／水混液(3：1)に溶かし，正確に100 mLとし，標準溶液とする．試料溶液及び標準溶液10 μLずつを正確にとり，次の条件で液体クロマトグラフィー〈*2.01*〉により試験を行い，それぞれの液の[6]－ギンゲロールのピーク面積A_T及びA_Sを測定する．

[6]－ギンゲロールの量(mg)＝$M_S \times A_T / A_S$

M_S：定量用[6]－ギンゲロールの秤取量(mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計(測定波長：205 nm)

カラム：内径4.6 mm，長さ15 cmのステンレス管に5 μmの液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充塡する.

カラム温度：40℃付近の一定温度

移動相：水／アセトニトリル／リン酸混液(3800：2200：1)

流量：[6]－ギンゲロールの保持時間が約19分になるように調整する.

システム適合性

システムの性能：標準溶液10 μLにつき，上記の条件で操作するとき，[6]－ギンゲロールのピークの理論段数及びシンメトリー係数は，それぞれ5000段以上，1.5以下である.

システムの再現性：標準溶液10 μLにつき，上記の条件で試験を6回繰り返すとき，[6]－ギンゲロールのピーク面積の相対標準偏差は1.5%以下である.